

心豊かに
生涯学習



中之町コミセンだより

第262号

令和2年度 運営委員会総会 コロナ禍、萎縮しないが 慎重な運営を討議

6月27日(土) 令和2年度中之町コミセン運営委員会が開催されました。コロナ禍、「3密」を避けるため2階集会室を使っでの開催となりました。

昨年度事業報告や決算報告承認の後、今年度事業計画(案)と予算(案)審議に移りましたが、新型コロナウイルス感染症の終息がしばらくは見通せないという状況の認識で一致し、大型イベント等については今年度は中止。その他の事業も状況を見ながら関係機関との協議や準備などを進めて行く」ということになりました。一方、老朽化が進んでいる各種設備・機器等についても整備を進め、利用者が学習しやすい環境づくりを進めて行くことなども確認されました。中川運営委員長は、「萎縮はしなけれど、慎重な運営をしていきましょう」と結ばれました。本年度の役員体制は右表のとおりです。1年間、よろしくお願い致します。

【令和2年度 コミセン運営委員会役員体制】

委員長	中川 隆次	(中之町上町内会長)
副委員長(新)	家造坊 繁	(中之町下町内会長)
	松尾 滋	(中之町中町内会長)
	(新) 武田 美紀	(中之町三菱自治会)
	(新) 菅原 実	(中之町清水住宅自治会)
委員	吉田 稔	(中之町上町内会)
	(新) 砂岡 文雄	(中之町下町内会)
	(新) 高原 伸一	(中之町上町内会)
	竹原 茂	(中之町下町内会)
	(新) 安田 ミチ子	(中之町中町内会)
	郷谷 幸男	(中之町地区農業振興協議会)
	大原 博	(中之町財産区管理委員会)
	(新) 上田 隆文	(中之町老人クラブ連合会)
	勝岡 茂樹	(三原市消防団中之町分団)
	阪井 正道	(中之町コミセン利用団体)
管理指導員	安倍 弘治	(中之町コミセン運営委員会)
生涯学習相談員	上羽場 隆弘	(三原市教育委員会)
書記・会計	村上 義基	(中之町上町内会)

地域の文化史を訪ねて 深町「ふるさと賛歌」(前編)

三原市内各地域の盆踊りを巡っていると、その節回しが似ていることに気がきます。忠臣蔵などの敵討ちの描写、仏の教え、中世の生活様式など文化的に貴重な内容を含んだ文言で、江戸時代に「口説き」として全国に普及、定着していったものだそうです。しかし内容の一部には現代なら放送禁止用語で綴られている件(くだり)が多いのも事実。そうした中、10年ぐらい前に深町の盆踊りに参加した時、その口説きを聞いて「ふ…むむ、これは新しい??」と、ビックリした記憶があります。文言・内容が地元農産物の美味しさをアピールしたり、それを創り出した気鋭の人々や風土への称賛、応援で綴られている賛歌なのです。

今回、この事について、数年前まで盆踊りの櫓の上からマイクを握って「口説」いておられた深町上組の西本一二三(ひふみ)さんに聞いてみました。

「そうですね。確かに、昔からの「口説き」を私も知っていましたが、戦後のある時期から『古い言い回しなので、聞いても情景を描写するのが難しいし、内容にも難があるようなものをずっと引き継いでいくのはどうしたもんだらう?』という声が多くなったようです。町内の役員が色々働きかけられた中で、当時深小の教師を務めておられた石井良雄さん(故人)の作られた詩を元に、従来の口説きの音程に乗せて編曲されたのが現在の『ふるさと賛歌』です。」

「初めのころは「マスカットの生産が大正時代には始まっていた」とか、「堆肥が違うから美味しいよ」とかが歌詞に入っているの、『民謡』として唱っていて少し気恥ずかしかったのを憶えています。…振り返ってみると他の地域にはない、素晴らしい口説きだと思いますよ。」とニコリ。

(9月1日 後編に続く)



毎年お盆の夜に、深町の隅々にまで強くそして優しく響き渡る太鼓と「口説き」。



今回、取材に協力くださった西本一二三さん。手にされているのは「ふるさと賛歌」の歌詞。

コミセンから重要なお知らせです!

本年度予定されていた「コミセン文化祭」は中止します

☆「中之町コミセン文化祭」は2年に一回のペースで開催され、通常であれば今年の秋に21回目を迎える予定でした。

しかし今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点(3密について完全な対策を実施できない)から、6月24日のコミセン利用団体ならびに6月27日のコミセン運営委員会それぞれの総会で中止という結論に達しました。

展示や演技の発表を楽しみにされておられる利用者の方も多いかと存じますが、なにとぞご理解ください。

